

淡路夢舞台の果たすべき役割、将来ビジョン

＜改革の方向＞

- 大阪湾ベイエリアの新たな展開を見据え、地域の活性化を牽引する拠点として淡路夢舞台を創造的に再生する

背景
1990～

我が国初の24時間営業の国際ハブ空港「関西国際空港開港」のインパクトを生かし、大阪湾ベイエリアを「世界都市関西」形成のフロンティアに

淡路夢舞台の開発コンセプト

◆「淡路島国際公園都市」構想（1992）

ベイエリアにおける21世紀の先導拠点／阪神・淡路大震災からの「復興のシンボルプロジェクト」

【理念】自然との対話、人との対話、世界との対話を通して、国内外の人々の心と文化が交流する「コミュニケーション都市」を形成

【目標】①コミュニケーション文明創造の拠点として世界に開かれた『多彩な交流空間の形成』
②次の世代に遺産として託すことのできる『自然の回復と望ましい環境創造』
③淡路島の自然・風土・歴史を生かした、瀬戸内らしい『美しい風景の形成』

◆「淡路夢舞台」の開発コンセプト（1993～）

▷ 淡路島国際公園都市の中核施設として、土砂採取跡地に緑の自然を復元し、そのダイナミクスな斜面を有効利用して、花と緑にあふれる美しい景観を形成するとともに、人々が集い交流する主要施設を整備

▷ コミュニケーション都市をめざす淡路島国際公園都市の一大拠点として、さまざまな夢が織りなす大スケールの夢舞台を創出

✓ 花と緑と海が織りなす素晴らしい景観を最大限に生かしながら、眞のコミュニケーションの心が大きく広がる施設群が見事に配置されています。まさに夢舞台と呼ぶにふさわしい感動のステージが実現。人と自然、人と人のコミュニケーションの輪が大きく広がっていくことは喜びにたえません
—兵庫県

✓ 淡路夢舞台を訪れる人々に、日常見過ごしてしまいがちな自然の様相をどれだけ感じ取ってもらえるか…。21世紀はもはや、放っておけば自然が環境を整えてくれる時代ではなく、一人ひとりが強い意志をもって、積極的に自然に働きかけながら、環境と共生していくかなければならない時代です。

✓ 2000年という節目の年に誕生した夢舞台。これから千年の時を超え、水と緑に囲まれて、人々に勇気を与える続ける場所に育ってほしいと願っています。
—安藤忠雄氏

背景
2020～

＜大阪湾ベイエリアの新たな展開－注目の高まり＞

- ポスト大阪・関西万博（2025～） ■ 神戸空港国際便就航（2025～）
- MICE施設開業：アクリエ姫路（2021）/ジーライオンアリーナ（2025）/大阪IR（2030頃）
- ワールドマスターズゲームズ関西（2027）

➡ ◎世界からの人・モノ・投資の呼び込み ◎高付加価値で持続可能な観光・地域づくり

淡路地域に関する活性化等の方針（兵庫県）

● 兵庫県地域創生戦略（淡路地域の取組方針）（2025.3）

【目指す姿】人と自然の良質な関係が環となって広がり、誰もが安心して暮らし続けられる環境豊かな島

【取組方針】①訪れたくなる島づくり、②島を支える産業の振興、③すこやかに暮らせる島づくり、
④住み続けたくなる島づくり、⑤安全・安心な島づくり

● 兵庫県域の大阪湾ベイエリア活性化基本方針（2023.3）

国内外からの人の流れと交流を生み出し、人とのふれあい、本物の体験等を通じて、暮らしの本質を思い出し、原点へと立ち返る場や機会を創出

➡ ◎中長期・広域PJ：「六甲有馬・淡路島Wellness Destination」の推進

- 世界クラスのWDとして、淡路は「海」のリトリートエリアを形成
- 国内外のモダンラグジュアリー層をターゲットに、高付加価値・滞在型エリア創出

● ひょうご新観光戦略（2023.3／中間見直し中）

＜課題への対応＞

本物で上質な観光コンテンツを活かし、特にインバウンドの高付加価値旅行者を増やすなど、「量（宿泊者の数）」と「質（消費単価）」の両方を伸ばすことが必要

＜見直しの方向性 2025.7時点＞

- ①大阪湾と瀬戸内を結ぶ東西の結節点である本県が旅の目的地に。本県を宿泊拠点として広域観光する新たな人の流れをつくる
- ②主要拠点と着地・体験型コンテンツを繋ぎ、県内周遊・長期滞在・宿泊を促進

淡路夢舞台の創造的再生のキーワードは？

→ *県としてのエリアビジョン
*投資を呼び込む枠組み

主な施設の開発コンセプト

施 設	開 発 の コンセプト
国際会議場	<p>＜コミュニケーション文明創造の中心の場／海外賓客へ日本・兵庫・淡路の文化を伝える国際交流の場＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 優れた立地条件をいかした、政府や国際機関の会議の開催も可能な質の高い国際会議場機能 ● 幅広い会議需要に対応できるコンファレンス機能 ● 内外に開かれたコミュニケーション実践の場
ホ テ ル	<p>＜夢舞台全体のランドマーク／コミュニケーション文明創造の中心の場＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ● リゾート＆コンファレンスを基本に、国際会議場への参加者、国内外の観光客にやすらぎとくつろぎの場を提供 ● コンファレンス需要に対応できる施設 ● 機能的な部屋が並ぶだけでなく、施設内の移動が様々な交流のきっかけの発見につながる空間をちりばめる
展望テラス	<p>＜夢舞台の最も重要な部分／本物の自然と交流できる回遊式庭園、誰にでも開放された空間＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 淡路の自然、景観、人々とのふれあいを楽しむ場 ● 空、水、音、風、香り、光、闇 あらゆる自然を感じる庭と空間を創出
展望レストラン	<ul style="list-style-type: none"> ● 眺望を楽しみながらくつろぐ空間 ● 淡路の素材を提供。ここでしか味わえない食、物販を提供
温 室	<ul style="list-style-type: none"> ● 花と緑の空間を楽しめる多彩な交流の場 ● 自然の美しさ、素晴らしさを五感で体感。21世紀にふさわしい新たなライフスタイルを提案
野外劇場	<ul style="list-style-type: none"> ● 多彩なイベント開催の場 ● 山を背景に海に向かって開かれた劇場 ● 閑散期には大阪湾を望む展望施設、階段状広場として交流の場を提供
緑 地 等	<ul style="list-style-type: none"> ● 自然と人がふれあい、対話のできる「緑の舞台」を再生 ● 小動物が生息する緑豊かな「故郷の森」を次世代に贈る ● 「新しい花と緑の文化」を世界に発信 ● 阪神淡路大震災 祈りの庭
交流の翼港	<ul style="list-style-type: none"> ● 淡路島国際公園都市への「新しい海の玄関口」 ●瀬戸内海、大阪湾を舞台に各種旅客船、クルージング船が寄港する海洋ネットワーク機能 ● 海の公園機能

※「コミュニケーション文明」とは

阪神・淡路大震災からの復興にあたり、従来の「経済優先・効率性重視」の考え方から、「人間中心」で共感・連携、共助を軸とした新しい文明の必要性を提唱するもの。

「人と人のつながり」「共生と共助の社会」「情報と意思疎通を重視した行政のあり方」「成熟した市民社会の形成」を重視する。